

2015 年

国 語 (A)

(時間 50 分)

<解答を記入するときの注意>

1. 試験開始のあいずがあるまで開かないこと。
2. 受験番号は解答用紙の定められたところに記入すること。
3. 解答は解答用紙の定められたところに記入すること。
4. 文字はていねいに書くこと。
5. 答案ができあがっても終了のあいずがあるまで着席し、指示にしたがって提出すること。

高 輪 中 学 校

次の問いに答えなさい。

問一 次の傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- 1、ここからシンキまき直しを図ろう。
- 2、彼はその国の国籍を取る資格ヨウケンを備えている。
- 3、誠意を力いた対応に腹を立てる。
- 4、まだ吹雪はおさまらない。
- 5、私語はその都度注意しています。
- 6、古城から見る落日におもむきを感じた。

問二 次の各文の慣用表現について、本来正しいものは、ア・イのどちらですか。それぞれ記号で答えなさい。

- 1、油断すると（ア、足 イ、足もと）をすくわれるぞ。
- 2、彼は入学試験当日の朝も寸暇を（ア、惜しまず イ、惜しんで）勉強していた。
- 3、僕と彼とは（ア、強い イ、深い）絆で結ばれている。
- 4、あらゆる展開を念頭に（ア、入れて イ、置いて）臨むべきだ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとします。

（注）スタジオジブリが出している『熱風』という雑誌がある。そこに宮崎駿が二〇〇八年一月二〇日に日本外国特派員協会で質疑応答したときのやりとりが採録されている。

一読して驚いたのは、宮崎駿もまた「国内市場のサイズ」と「国内需要」を創作のキーワードに挙げていたことである。宮崎はハンガリーの記者の「日本の観客と世界の観客の違いを意識しているか」という質問にこう答えている。

「実は何もわからないんです。僕は自分の目の前にいる子供達に向かって映画をつくります。¹子供達が見えなくなる時もあります。それで中年に向かって映画をつくってしまったりもします。でも、自分達のアニメーションが成り立ったのは日本の人口が一億を超えたからなんです。つまり²日本の国内でペイラインに達することができると可能性を持つようになったからです。国際化というのはボーナスみたいなもので、私達にとっていつも考えなければいけないのは日本の社会であり、日本にいる子供達であり、目の前にいる子供達です。それをもっと徹底することによってある種の普遍性にたどり着けたらすばらしい。それは世界に通用することになるんだ、って。」（『熱風』、二〇〇九年一月号、スタジオジブリ、61ページ）

私はこれこそ彼の³慧眼を鮮やかに示す言葉だと思う。

日本のクリエイターや知識人の中で、「自分の仕事が成り立ったのは日本の人口が一億を超えたからなんです。日本の国内でペイラインに達することができると可能性を持つようになったからです」ときっぱり言い切れる人が何人いるだろう。あらゆる仕事には端的に「それで飯が食えるかどうか」という⁴きわめてクールでリアルな分岐線がある。

あまり言う人がいないので、代わって申し上げるが、専門的な技能や知識と「食える・食えない」分岐線の間には直接の関係はない。どれほど専門的に高い技能や深い知識があっても、それに対して対価を支払う市場がなければ、「それでは食えない」。

その意味で、日本のクリエイターは世界的に見ても、きわめて恵まれた制作環境にいる。日本人相手に日本語ベースの制作物を提供しているだけで、「飯が食える」からである。

「飯が食える」どころか、⁵うまくすると「世界的レベルの仕事ができる」のである。もちろん、順番を逆にして、「世界的なレベルの仕事をしよう」と思っているいきなり世界に飛び出してゆくクリエイターもいる。私とて、その志を⁶「壮とするに」やぶさかではない。けれども、私たちの国では「国内的なニーズに合った仕事」をしているだけでとりあえず飯が食えるという事実の「重み」を忘れてはならないと思う。こういうことを言うと、「そんなことだから、⁷日本人は『内向き』でダメだと言われるのだ」と識者たちは食ってかかる。

⁸私はこの議論にいささか不満である。

そうおっしゃる⁹夫子ご自身はどうやって「飯を食っている」のか、その¹⁰足下の事情について、少し考えてみた方がよいのではないか。

彼らが「内向き批判」論で原稿料を稼げるのは、日本人読者が彼らの書き物を読んでいるからである。彼らの発言を掲載しているのは日本のメディアであり、使用言語は日本語であり、扱っているのは日本人が大好きな「だから日本人はダメなのだ」という定番の論件である。「内向きはダメだ」論者の生計を支えているのは、ドメスティックな市場なのである。自分はいったい誰に向かって話しているのか。誰が財布から金を出して、「内向きはダメだ」論に代価を支払っているのか。そのことを忘れない方がいいと思う。

私たちは、とりあえず「目の前にいる日本人」たちに向けて発信しているだけでも「食える」サイズの国内市場を持った国に生まれた。そのことを、宮崎駿とともに、感謝すべきだと思う。

私自身は¹¹「内向き」な言論人である。

日本人を主たる読者に想定して文章を草し、それで口を糊¹²している。

もちろん、広く世界に読者を求めたいと、願っている。さいわいにも何冊かの著作は外国語に訳され、¹³いくばくかの外国の読者を得ることもできた。けれども、私にとつてそれはやはり「ボーナスみたいなもの」である。

だいたい、「外向き」という場合(そもそも、そんな言葉は誰も口にしないが)、「外」とは具体的には「どこ」のことなのである。

どの言語で、どのようなトピックについて、どんな語り口で語ると、それは「外向き」と判定されるのか。

私が仮に英語で書いたとして、非英語圏の読者たちから「英語圏内向き」ではないかという批判を受けた場合に、どう反論すればよろしいのか。英語圏の人たちは国際会議でも国際学会でも母語で通すことができる。母語で思考し、母語でしか表現しない人間で、自国のことしか知らない人間でも英語圏生まれなら「内向き」ではないということになるのか。どうも「外向き」に生きるということには¹⁴問題が多そうである。

私は断固として「内向き」の人間である。

《内田 樹『街場のマンガ論』より》

(注)

スタジオジブリ……日本を代表するアニメーション制作会社。

壮とする……勇ましいものととらえる。

夫子・足下……ともに「君・あなた」という意味。

問 一——1「子供達が見えなくなる」とはどういうことですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、子供達を子供として扱わなくなる。

イ、子供達を観客として意識しなくなる。

ウ、子供達に興味・関心をもたれなくなる。

エ、子供達の要求するものがわからなくなる。

問 二——2「日本の国内でペイラインに達することができ」と同じ内容を、文中から三〇字以上三五字以内で抜き出しなさい。

問三 — 3「慧眼」・6「やぶさかではない」・10「いくばくかの」の文中の意味としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 3
- ア、本質を見抜く力
 - イ、将来を見通す力
 - ウ、真偽を見極める力
 - エ、環境を見定める力

- 6
- ア、嫌ではない
 - イ、こだわりはない
 - ウ、ためらいはない
 - エ、することは仕方がない

- 10
- ア、多くの
 - イ、わずかな
 - ウ、不特定の
 - エ、広範囲の

問四 — 4「きわめてクールでリアルな」とありますが、どういう点が「クールでリアル」のですか。説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、専門的な技能や知識に対して、それに見合った見返りを得られる市場が実際には存在しないという点。
- イ、高い技能や深い知識と実際の仕事とは本来別のものであり、両立させることは不可能であるという点。
- ウ、本来仕事は生活のために行うもので、すぐれた知識や技能などは自己満足とみなされているという点。
- エ、仕事で利益を出すためには、自分の持つ専門的な知識や技能を十分に生かせない場面もあるという点。

問五 — 5「うまくすると『世界的レベルの仕事ができる』とはどういうことですか。説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、日本人に日本語で発信するだけでも、それを徹底すれば、世界に通用する域に達することもあるということ。
- イ、消費者の要求水準の高い日本で仕事を認められることができれば、自然に普遍性を勝ち得ていくということ。
- ウ、世界有数の市場である日本で仕事すること自体、すでに世界レベルで仕事をしているといえるということ。
- エ、国内的なニーズに合わせた仕事で生計を支えていれば、いつかチャンスが巡ってくることもあるということ。

問六 — 7「日本人は『内向き』でダメだ」とありますが、「内向き」の人とはどのような人ですか。文中の言葉を使って三〇字以内で答えなさい。

問七 — 8「私はこの議論にいささか不満である」とありますが、その理由を説明しなさい。

問 八 9 に入る語としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、本能的に イ、徹底的に ウ、社会的に エ、国際的に

問 九 11 『『ボーナスみたいなもの』とありますが、どのようなことを「ボーナス」と表現しているのですか。文中の言葉を使って四〇字以内で説明しなさい。

問一〇 12 「問題が多そうである」とありますが、それはなぜですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、「外向き」に作品を制作したときに、実際にその作品に対して対価を支払ってくれる市場が存在するかどうかかわからないから。
イ、「外向き」に文章を書き、広く世界に読者を求めたいと思うならば、今は英語を使うことが最適ということになってしまいうから。
ウ、「外向き」という意味がはっきりしておらず、ある特定の言葉で書けば、その言語圏の人には「内向き」ということになるから。
エ、「外向き」に表現するためのトピックや語り口を選択することは難しく、選択を誤ると世界的レベルの仕事ができなくなるから。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数に制限がある場合は、句読点や記号も字数に含まれるものとします。

中学一年生の陸は、近所の公園で同級生の田町果歩をみかける。二人は小学校時代も同級生であったが、田町は最近登校できない日々が続いていた。

くさむらや木かげで新たな昆虫を見つけるたびに、陸は短パンのポケットからメモ帳をとりだし、虫の名前を書きとめた。

「りつくん、虫、つかまえないの？」

「うん。前はつかまえてたけど、いまは観察だけ。つかまえると、すぐに死んじゃうし。たとえば、このキボシカミキリなんかさ、死んだとたんに、この黄色い模様が消えて、白くなっちゃうんだ。標本にしたって、そんなのはもう、キボシカミキリじゃないからね」

田町が真剣に聞きいつているので、陸はなんだかむずむずした。クラスメイトの女子に感心されている自分がほろしいような、照れくさいような。

「だから、集めるのはぬけがらだけにしとこうぜ」

急に態度がお兄さんっぽくなる。

妹のように思えるのは、田町が小柄なせいでもあった。一年A組の男子のなかでイタルのつぎに背が低い陸よりも、田町はさらに背が低い。

「でもりつくん、こんなにぬけがらばかり集めて、どうするの」

「どうもしないよ。とつとくだけ。お母さんに見つかって捨てられるまで」

「えー」

「去年、ランドセルのなかにぬけがらいっぱいいたためこんでたら、お母さんが見つけて、^{そつとう}卒倒しかけてた」

七秒くらいばかりとしてから、田町が体をおりまげた。白い帽子の下、汗にぬれた顔をくしゃくしゃにし、体をよじら

すようにして笑いだす。

田町が笑っている。こんなに愉快そうに。こんなに自由な感じで。めったにいない虫を発見したみたいなの、駆けまわりたいような満足感が陸の胸をいっぱいにする。けれど、ながめているうちにそれはみるみるしぼんで、²逆に悲しくなってきた。

「田町」

言っちゃいけない。言わないほうがいい。

頭ではわかっていた。

「なんで学校に来ないの？」

ああ、やっぱり。言っただけに後悔した。

一瞬にして、田町の笑いが消えた。子リスみたいにおどおどした目が、行き場をなくして緑の丘をさまよう。力をなくしたそのまなざしは、もうさっきまでの田町ではなく、一年A組のかたすみでいた無口な女の子のものだった。

³……

……

……

……

声をなくしたふたりの頭上から、小雨のように、セミの鳴き声が降りそそぐ。

降りそそいでも、降りそそいでも、もはや⁴さっきまでの丘にはもどれなかった。

のどがかわいたと田町が言っただけ、ふたりは丘をあとにした。

プールのそばにある自動販売機で、田町は冷たいレモネードを買い、陸にもコーラをおごってくれた。

きんきんに冷えたペットボトルのふたをまわすと、プシュッと小さな音がして、涼やかな香りがほとばしる。のどをすりぬける炭酸の刺激が気持ちいい。

ベンチの上でコーラをごくごく流しこむ陸の横で、田町はあまそうなレモネードをちびちびやっていた。のどなんてかわいてなかったんだろな、と陸は横目でうかがいながら思う。陸と同様、気まずい沈黙から逃げただけだろう。

——なんで学校に来ないの？

—————

—————

あのひとことをきっかけに、ふたりのあいだからは会話が消えた。田町は標本の虫みたいになってしまった。悪いことを言ってしまったと最初は思った陸も、時間がたつほどに、だんだん、なにが悪いのかわからなくなってきた。

何年かぶりに田町としゃべって、いっしょにぬけがらがしをして、いろんな昆虫を見つけて、楽しくて、田町は大声で笑って、なのに、あのことを聞かずに別れるなんて、⁵そっちのほうがへんなんじゃないか？

太陽はとうに天頂のピークをすぎて、西へとかたむきだしている。ベンチの前を行き交う人々の多くは髪をぬらしていて、プール帰りであるのがひと目でわかる。陸は昆虫観察で日焼けした自分と彼らの肌を見くらべて、負けてるなあ、と思った。木立に守られた丘と、むきだしプールとは、やっぱり夏の威力がちがう。

「あ」

となりの田町から意識をそらすように、前をとる人々を観察していた陸は、突如^{とつじょ}、両目を見開いた。見おぼえのある顔がある。

おなじクラスの吉田くん。髪がぬれ、肌も焼けて雰囲気が変わっているから、すぐにはわからなかった。が、あのとぼけた顔はたしかに吉田くん。

「ね、あれ」

田町も見ただろうか。いきおいこんでふりむいた陸は、こくりと息をのみこんだ。

⁶田町は吉田くんを見ていなかった。陸のことさえ見ていなかった。ただ両手で包んだ黄色いペットボトルだけを、いまにも涙がこぼれそうな目で見つめていた。

「田町？」

「あたし……あたし、うまく言えないんだけど」

「うん？」

「うまく言えないけど、なんか、居場所が、ない気がして」

「居場所？」

「あの教室。あたしの場所だけ、ない気がして」

「なんで」

「うまく言えないけど」

もどかしそうに田町がペットボトルのふたを開け、またすぐに閉める。

「うちのクラス、女子、十二人だけでしょ。なんか、少なすぎて、その、隠れるところがないっていうか」「隠れる？」

「原小のころは、どのクラスにもいたの。あたしみたいな子が、ほかにもいた。だから、かたまつて、隠れてられた。でも、いまは……」

せわしくなくふたを開閉する田町の手首で、虫よけリングがぶらぶらとゆれる。田町の言う意味が陸にはわからなかった。「だれかにいじめられてるの？」

「そうじゃない。いつかは、はじまるかもしれないけど」

「なんで」

「あたし、のろいし、小さいし。A組の女子、みんな背が高いんだ。平均身長、小六のときとぜんぜんちがう」

「ぼくだって低いよ」

「でも、りっくんにはイタルがいる。自分より下がいるでしょ」

「そんなに愛わんないけど……っていうか、背が低いこと、そんなに気にすることないよ」

「動物界では、むしろ、小さいほうがいいんだから。さっきも言ったけど、昆虫が動物のなかで一番繁栄したのは、小さいからでもあるんだよ。体が小さいほうが少ない食べもので生きてけるでしょ。それって、すごく有利な条件なんだよ」

めずらしく、田町の反応は速かった。

「でもあたし、虫じゃないし」

みもふたもない応答に、陸は声をつまらせた。

でもあたし、虫じゃないし。
言われてみれば、そのとおりだ。田町は虫じゃない。田町が生きのびなきゃならないのは森でも丘でもなくて、一年A組の教室だ。

そう、田町がぼくに言っただけなのは、昆虫のたとえ話なんかじゃない。

たぶん、もつとまつすぐで、もつと強い言葉。

わかってるのに、出てこなかった。一気に飲みほした炭酸で麻痺したみたいに、舌がこわばって、動かない。

思えば、田町の心配をしている陸自身、丘をはなれた学校ではおとなしくてめだたない男子なのだった。ものかげにひっそりと棲息する種族。騒がしい男子たちにはいばられても、文句も言えずに笑っている。どうやら人間界にも弱肉強食がありそうだと、最近、やっとわかってきた。

こんなぼくになにが言える？

くらくらするほど青い空の下、考えるほどに自信をなくしていく。

だまりこむ陸のとなりで、田町もやはりだまりこみ、ふたたび9と化しつつある。いけない、と陸はあせる。なにか言わなきゃ。虫のこと以外のなにか。田町がせつなく気持ちを打ちあけてくれたんだから。

《森 絵都『クラスメイツ（前期）』より》

問 一 —— 1 「急に態度がお兄さんっぽくなる」とありますが、それはなぜですか。文中の言葉を使って三五字以内で説明しなさい。

問 二 —— 2 「逆に悲しくなってきた」とありますが、このように感じた理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、今得ることができたこの素晴らしい状況を、維持・保有していくことは不可能に思えたから。
イ、得がたいものを得られた満足感が、得た瞬間を頂点として次第に冷めていってしまったから。
ウ、またとない機会に遭遇しながらも、それを活かさない自分自身の無力さを痛感しているから。
エ、発見したものをよく見きわめてみれば、やはり見せかけの姿であることがわかってきたから。

問 三 ― 3 「……」は四行続いています。この箇所は何を表現したのですか。文中から六字で抜き出しなさい。

問 四 ― 4 「さっきまでの丘」とはどのようなものですか。三〇字以内で説明しなさい。

問 五 ― 5 「そちのほうへんなんじゃないか？」とありますが、このように感じた理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、学校に行かない理由を話したいけれどうまく話せない田町のために、きっかけを作れたことは間違っていないと気づいたから。
イ、自分の気持ちを表に出してくれた田町に対して、こちらが自分の気持ちを押し隠したままなのは友人として失礼だと感じたから。
ウ、親しくなった友人のことを心配に思うのは当然なことなのに、勝手に遠慮して言葉をかけてあげないのは不自然だと考えたから。
エ、ようやく田町と親しくなれて日ごろの疑問をぶつけられる機会ができたのに、みすみすその機会を逃すのは惜しいと思ったから。

問 六 ― 6 「田町は吉田くんを見ていなかった。陸のことさえ見ていなかった」とありますが、その理由としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、触れられたくないことに平気で踏み込む陸を遠い存在のように感じ、何も話したくなくなったから。
イ、今まで無意識に避けていた問題を陸に指摘されたことで、静かに自分を見つめ直したくなったから。
ウ、吉田君を見ることがよってつらい学校生活を思い出し、涙があふれでてしまうことをおそれたから。
エ、陸の質問に何とか答えようと思い、自分の考えをうまく整理しようとすることに没頭していたから。

問 七 ― 7 「もっとまっすぐで、もっと強い言葉」とは具体的にはどのような言葉ですか。自分なりに考えて答えなさい。

問 八 ― 8 「こんなぼくになにが言える？」と陸が思うのはなぜですか。説明しなさい。

問 九 ― 9 に入る語としてふさわしいものを、文中から抜き出しなさい。

問一〇 ― 10 「田町がせっかく気持ちを打ちあけてくれたんだから」とありますが、田町が気持ちを打ちあけた場面の描写の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、言葉を読点で短く区切って話す話方から、動作が遅いという田町の性質をクローズアップさせている。
イ、おなじ言葉を何度も繰り返すことで、気持ちをうまく言葉にできない田町のはがゆさを表現している。
ウ、ペットボトルのふたを開閉する様子で、相手が自分の気持ちをわかろうとしないいらだちを示している。
エ、次第に言葉数を増やすことで、陸に聞かれなくても自分から積極的に打ちあけていく様子を表している。

【以下余白】

[illegible]